

令和5年度 学校自己評価システムシート（滑川町立滑川中学校）

目指す学校像	笑顔と幸せがあふれる滑川中学校
--------	-----------------

重 点 目 標	1,基礎的な知識・技能の定着を図り生徒一人一人が力をつける学習指導の充実 2,全教育活動における生徒理解を基盤とした組織的・系統的・積極的な生徒指導の推進 3,生徒・教職員の動きが地域社会に信頼感を生み出し、地域とともにある学校づくりの推進 4,自分を見つめた進路選択のための系統的なキャリア教育の推進
---------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校運営協議会にて、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者 生徒 事務局(教職員)	10名 0名 4名
-----	-------------------------	-----------------

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価（2月28日 現在）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
1	【学習指導の充実】 ・真面目な態度で授業へ積極的に取り組む生徒が多い。 ・県学調では、平均ポイントで下回る箇所も見られる。繰り返し学習等、継続的な取組が必要である。 ・積極的な話し合いに向けて、教員・生徒・保護者ともに課題意識を抱えている。教員間で授業参観をすることで、話し合いの手法を共有したり、根本的なところでは、学級経営を見直し、生徒が発言しやすい学級づくりをしていく。 ・家庭学習について、自ら調整しながら取り組ませるための取組について研究を深める必要がある。各教科で工夫しながら、目標を提示する。また、その目標に対しての学習方法を提示し生徒の努力を生徒自身で調整させる。	○学力の向上 ・基礎的な知識・技能の定着 ・学習指導力の向上	①学習状況調査の分析から指導方法の工夫改善をし、更なる学力向上と主体的な学びがある授業を推進する。 ②GIGA端末やICTを用いた指導方法の充実。 ③図書館教育の充実と不読率低下に向けた取組。 ④話し合い活動の充実に向けた指導方法の研究と実践。 ⑤特別支援教育に関する知識と理解を深め、日々の授業を実践。 ⑥小中連携、中高連携、一貫教育の推進を進め教育課程の一貫性ある実施について研究。 ⑦家庭学習・自主学習の方法の具体的な提示。	○感染予防対応を踏まえつつ、ただコロナ禍前に戻すのでは無く、それまで取り組んできた新しい対応を生かしながら、教育課程の推進ができたか。 ①学校評価に係る保護者対象アンケートで、各項目で8割以上が好意的な評価をしたか。 ②教員評価で、授業力向上について9割以上が積極的に取組んだか。	・教員対象のアンケートにおいて、授業力向上に関して3つの項目で9割以上が積極的に取り組んでいると回答している。 ・GIGA端末を積極的に使いたいが、使い方を理解していない、効果的な使い方が分からないといった理由からGIGA端末の使用を躊躇してしまっている教員が少なからずいる。 ・朝の10分間読書や夏休みの図書館POP作りなどを行い、不読率解消に向けての取り組みを実践した。学習状況調査の分析からも不読率が低下していることがわかった。 ・授業後に各生徒が学びを調整するような仕掛けがありできていないことが明らかとなった。保護者対象のアンケートにおいて、家庭学習に関して約6割の方からしか好意的な評価が得られなかった。	B ・定期的に授業参観を行う、積極的に研究授業を実施する、授業力向上に関する研修に参加するなど、校内研修会の実施、指導力向上に向けた取り組みを実践する必要がある。 ・GIGA端末の積極的な活用を行うために、職員研修を定期的に開催し、授業内で効果的に使用できるようにする。また、職員の作成した様々なコンテンツを集約し、活用できるようにする。 ・授業後に、今回の授業と次回の授業のつながりを意識できるような課題を全教員が必ず提示し、学力向上と自ら調整して家庭学習できるよう繋げていく。 ・教科連絡で持ち物を伝えるだけでなく、教科係から「〇〇を覚えてきてください」などと家庭学習に繋がる声かけができるようにする。
2	【生徒指導の推進】 ・様々な要因で不登校となる生徒が増加しているため、効果的な不登校対策を推進する必要がある。 ・清掃指導、挨拶指導、時間を守る指導について、教職員間の共通認識を醸成しなければならない。 ・生徒を理解し、素早い対応や根気強い取組を組織的に推進し、自己有用感を高めながら対応する必要がある。 ・授業を主とした関係性を構築する場面や聞く場面での指導技術の共有	○基本的生活習慣の定着 ○積極的な生徒理解のための取組	①不登校0を目指した生徒指導・教育相談体制の充実と、生徒・保護者との信頼関係の構築 ②「時を守る」を基本とした基本的な生活習慣の徹底。 ③報告・連絡・相談の徹底と職員間の情報共有と組織的指導 ④職員研修の充実と教育相談の手法の習得。 ⑤清掃指導の強化 ・具体的目標 ・自主的 ⑥職員間の連携（一貫した指導）	○新しい生活様式に基づいた取組と、コロナ禍以降の従前の生活のベストミックスによる、安心安全な教育課程の推進ができたか。 ①生徒・保護者アンケートで、挨拶・ルールが8割以上が好意的な評価したか ②不登校生徒の減少 ③職員評価で、8割以上が好意的な評価をしたか	・挨拶や時間を意識した生活については概ねの生徒が出来ている。しかし、「進んで」挨拶が出来る生徒、時間を意識して呼びかける生徒がいる一方、改善の余地がある生徒もいるのが現状である。 ・清掃については、黙々と清掃に取り組む生徒が多いが、必要ではない会話が見られる場面もある。清掃の取り組み方については、特に教師の意識を統一し、全校で取り組む必要がある。 ・不登校生徒の課題については大幅な減少とはなっていないが、つぼみ(学習支援室)を職員の時間割に位置付ける等の取組を通じて、徐々に教室復帰を目指す生徒が増加する等、一定の成果が見られた。	B ・挨拶、時間、清掃など、どのレベルを求めるのかを精査し、全職員で共有する。 ・生活の意識やマナーについて生徒たちに考えさせ、委員会ごとの活動を通して、生徒たちが主体的に活動できるようにする。 ・信頼関係づくりに向けて4、5月に二者面談を行う。今年度は、面談を希望する生徒がタブレットで申し込むシステムだったためか、希望する生徒は少人数だった。来年度は、生活アンケートにより希望の有無を確認するシステムとする。 ・指導技術の向上・不登校生徒の減少に向けて生徒指導・教育相談部を中心として研修を実施していく。 ・全職員が共通理解、共通指導が出来るよう、学年主任会を定期的に実施していく。 ・生徒指導・教育相談・SC・相談員等を中心に、全職員での連携を推進していく。
3	【地域とともにある学校づくり】 ・ボランティア活動についての意義やボランティアとはどういう行動なのかに付いての理解を進め、ボランティア活動の推進を図る。 ・メール、ホームページをボランティアの通じた広報活動と、ホームページの更新をメールを用いて通知する。 ・ボランティア活動やNAMEプロの結果が、どの様に社会に役立っているのかを理解させる。	○生徒・教職員の地域学校協働活動への積極的実践	①地域人材を活用した教育活動の実践と地域教育力の向上 ②教育活動の地域への積極的発信（広報活動の充実） ③教育活動の理解に向け、学校行事等の積極的な地域への公開 ④従来からの地域連携の場の減少に伴い、新たに学校を中心とした地域連携の場の提案をする。	○新しい生活様式に基づいた取組と、コロナ禍以降の従前の生活のベストミックスによる、安心安全な教育課程の推進ができたか。 ①保護者アンケートで8割以上が好意的な評価をしたか。 ②地域協働活動への積極的な関わりの増加 ③地域人材の活用	・学年ごとに地域清掃や奉仕作業によるボランティア活動を行うなど、日頃からボランティアへの意識を高めることができた。 ・ボランティア育成講座への参加者数が昨年度から11名増加した。 ・学校だより、学年・学級通信やホームページにおいて学校の活動を定期的に発信し、家庭・地域への情報公開を積極的に行った。また、生徒や教職員が地域行事へ積極的に参加したことで、町の広報誌によっても、学校行事だけでなくさまざまな活動に取組む様子が地域へ伝えられた。 ・89%の保護者が学校だよりやホームページ等で学校の様子を知ることができている。	A ・学年や学校の様々な取り組みを通して、ボランティアへの意識は高まっている。さらに全体のボランティアへの参加意識を高めるために、委員会活動にボランティアの視点を組み込んだり、赤十字との関連付けした活動を計画したりする。 ・生徒が学校の様子を保護者と振り返ったり、話したりしている割合が低かったので、紙やデータでの伝達だけでなく、学校公開日を設定することによって、実際に生徒や学校の様子を見る機会をつくる必要がある。
4	【キャリア教育の推進】 ・9年間を見通したキャリア教育推進のため、キャリアパスポートを活用した指導の充実を図る必要がある。 ・生徒が将来の目標実現のための小・中・高連携、そして地域との連携は積極的に行われていると考える。しかし、生徒自ら自分の将来について考える事や保護者と話し合うことは十分とは言えないので、効果的な手法を研究する必要がある。 ・進路情報の積極的発信	○自ら進路選択できる力を育むための系統的なキャリア教育の推進	①小・中・高等学校との連携を模索し、連携を図る。 ②各学年の進路学習で、発達段階に応じた効果的な活動を模索しキャリア教育を推進する ③今できる社会体験チャレンジ事業(NAMEプロ)を通して、望ましい勤労観や職業観を持たせる。 ④キャリアパスポートの効果的活用を図る。(面談での活用など)	○新しい生活様式に基づいた取組と、コロナ禍以降の従前の生活のベストミックスによる、安心安全な教育課程の推進ができたか。 ①保護者アンケートで8割以上が好意的な評価をしたか。 ②キャリアパスポートを活用し9年間を見通した活動ができたか。 ③地域人材を積極的に活用し、教育力の向上を目指したか。	①進学・進路情報を中心に連携を図ることができたが、アンケートからはキャリア学習、進路指導について、保護者からは学習内容が見えにくい実態が明らかとなった。 ②各学年の特性に応じて適切なキャリア・進路教育をすることができた。学校でのキャリア教育を通じて、家庭でもキャリアについて話ができるように繋げることが課題である。 ③社会体験チャレンジ事業(NAMEプロ)を通して、望ましい勤労観や職業観を持たせることができた。 ④キャリアパスポートを記入することができた。また、新しい・担任がその生徒を知るために年度当初に活用することができた。	B ○発達段階に応じてキャリア感覚を養う ・1年「自分を知る」 ・2年「広げる・深める」 ・3年「進路選択」 ○上記のポイントを押さえて、各学年の担当が連携を図りながら、メール配信やホームページを活用した進路情報やキャリア教育についての発信を行う。 ○職員研修でキャリア教育への理解度・指導観を高める。

学 校 関 係 者 評 価
実 施 日 令和6年3月4日
学校関係者からの意見・要望・評価等
・授業力向上に向けて、学校内で積極的な授業公開や教科ごとの授業研究を実施し、全体での情報共有と蓄積してきた滑中としての教育を伝承していってほしい。 ・GIGA端末を全職員が使いこなすのは難しいが、授業内で効果的であった内容を共有していくと良い。 ・GIGA端末やICTを用いた指導方法の充実を図るために、職員間の情報共有や小中高での授業参観や情報交換、研修会を実施するなど指導力の向上を図ると良い。 ・家庭学習に関しての保護者の好意的な評価が約6割。改善策を常に最善の方策を追及してほしい。
・不登校生徒に対して教職員が学習支援室を通して関わる取り組みは、生徒の安心安全な居場所づくりや教室復帰を目指すきっかけづりになっていて非常に良い。教職員の共通理解・共通指導が大切であるので今後も研修や各種部会など工夫して取り組んでほしい。 ・不登校については大きな課題であるが、学校だけでなく、町全体での連携した対応が大切である。 ・よく挨拶してくれる生徒が多くいて気持ちが良い。
・地域清掃や奉仕作業などのボランティア活動を積極的に取り組む様子が見られた。これからもいっそう地域とともに活動してほしい。 ・ひまわり活動では継続した活動の流れが見え、無理なく続けることができている。 ・地域資源を活かした活動はどれも素晴らしい。今後も地域資源を積極的に活用するとともに、地域の高校との交流も拡充していけると良い。 ・生徒だけでなく教職員も町の臨地研修や地域行事へさらに積極的に参加し、より地域の歴史や文化を知ってもらいたい。
・社会体験チャレンジを通じて、地域の方たちとの関わりを大切にしながらキャリアについて考えるきっかけになっていた。 ・小中での連携だけでなく高校との連携を図ることがキャリア学習や進路指導につながることを保護者に周知できるとよい。 ・社会体験チャレンジが生徒の将来の目標実現(職業観等)のための貴重な経験となっている。 ・自己理解や自己管理、人間関係など発達段階に応じた育成により一層努めてもらいたい。